

株式会社テクノフェイスは、平成14年に北海道大学発R&Dベンチャー企業として設立。高度なIT技術による高品質・高付加価値のものづくりで、北海道経済に貢献することを目指し、平成27年にはデジタルサイネージ(電子看板)の放映が容易に行えるソフトウェアを開発。本事業ではその発展形である、複数拠点での放映を一元管理するソフトウェアの開発が進められた。

汎用機器と簡単操作で、導入・運用コストを抑えた 多拠点型デジタルサイネージ制御ソフトウェアの開発

必要な情報を、適時に適所へ遠隔操作で配信

コンビニや金融機関などに設置されたディスプレイから流れる宣伝画像。IT活用の広告メディアとして、一般の人たちの目に触れることが多くなったデジタルサイネージだが、発信元となる企業の中にはコスト面や操作の難しさから導入できずにいる会社もあった。株式会社テクノフェイスではこうした潜在ニーズを掘り起こす前段として、誰でも簡単な操作で放映できるソフトウェアを、コストを抑えた価格帯で平成27年に発売。その後、バージョンアップを図る一方で、本事業のもと、多拠点モデルへと展開を進めるソフトウェアの開発に取り組み、商品化した。

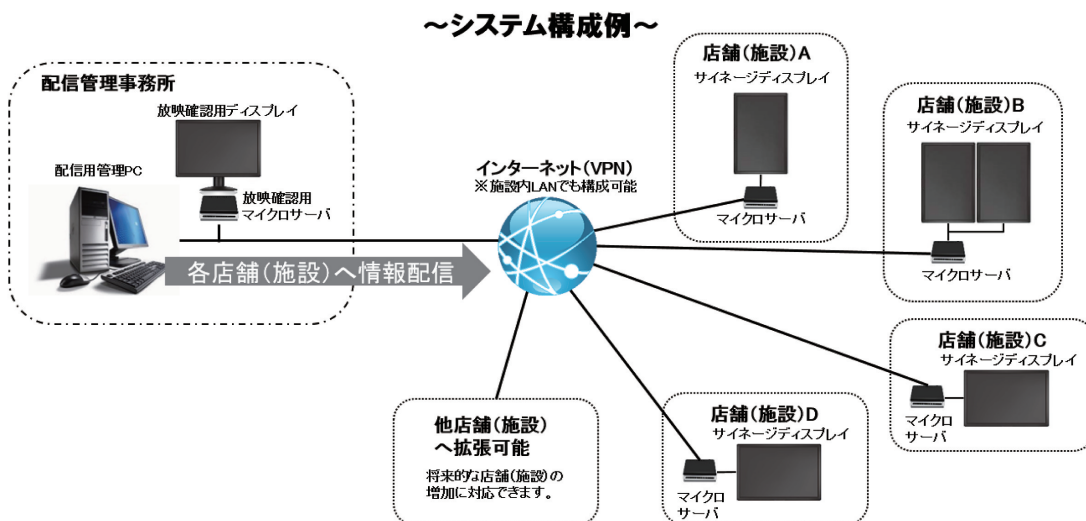
開発にあたって細心を払った操作性については、放映スケジュールに沿った編成もドラッグ&ドロップで簡単に行え、本社等に設置した管理センターから配信を受ける各拠点では電源ボタンを押すだけで放映できるなど、利用者の負担を大きく軽減。スケジュールに沿って自動で進む通常の放映以外にも、緊急連絡の割り込みや、拠点グループごとに放映内容を変えられるなど、遠隔操作により、必要な情報を必要な時間に必要な拠点へ配信することを可能にしている。

学校、医療機関…大きく広がる導入の可能性

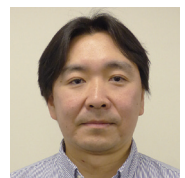
放映コンテンツは動画のほか、画像、パワーポイント、PDFなどにも対応。機器類は特定のベンダーに依存しないため、既存の設備や汎用品も活用できる。また、配信したコンテンツが正しく放映されているかなど動作確認もすべて自動。各拠点では電源ボタン以外に触れる必要がなく、管理PC自体の操作も直感的で容易なことから特別な知識やスキルを必要としない。さらに大きなメリットとして、同種の既存ソフトとは異なり、ニーズに合わせたカスタマイズが柔軟に行える点も挙げられる。

簡単な操作とコストの低減を最大のテーマに開発された、テクノフェイスの「多拠点型デジタルサイネージ制御ソフトウェア」は、デジタルサイネージの導入をこれまで躊躇していた企業や施設にとっては朗報。モチベーションを上げる逸材だといえる。テクノフェイスでは販売先として、学校や店舗、医療・介護施設、映画館、ホテル、金融機関、スポーツ施設などのほか、コンテンツ会社など広告系やメディア制作系の企業が新しい商材を開発するツールとして活用できるものとみて提案を進めている。

多拠点デジタルサイネージシステム構成イメージ



100%札幌発信の技術で
デジタルサイネージの
マーケットを拡大



ソリューションテクノロジー事業部
小林 隆行

多拠点モデルの開発により、当社の放映ソリューションに大きな販売ツールがまた一つ加わりました。すでに全国展開を始めていますが、操作性については非常に高い評価をいただいています。100%札幌で開発した札幌発信の技術で、今後もデジタルサイネージの普及と発展に、さまざまな可能性を生み出していきたいと思っています。